

QSK 一人は皆のために 皆は一人のために

福岡県脊髄損傷者連合会
2015年8月10日

わだち

No.191

福脊連ホームページアドレス www.normanet.ne.jp/~ww101926/

“敗戦70年”をめぐり格差社会へ(4)

—戦争法案反対連日抗議—(学生の抗議・その主張をネットで

拾ってみた) ☆参加者(一九)「デモなんて怖いって言っても、やはり行動せずにはられないのです。私たちの目指す平和は“平和安全法制”なんて名前が付いたものなにはありません」☆参加者(二三)「自ら進んで戦場に自国の国民を送り込むような愚かな政治は、少なくとも戦後七〇年、この国には存在してこなかった。それを許さなかったのは何か。それは、

僕たち国民がこの国の日本国憲法の存在があったから」☆参加者(二二)「単純に戦争がしたくない。私は誰も殺したくないし死んでほしくないし・・・立憲主義もわかりません、みたいな政権に奪われたくないのですよ。私は

私の未来を自分で作って守っていきたいから」☆戦争という行為は勝っても負けても政治の失敗でしかありません。存立危機事態、逆でしょう。自衛隊の戦地への派遣が、日本にとって危険な状態を作り出すじゃないですか・・・」

☆「安倍さん、あなたはよく確信しているとか、そう思うわけでありませう、だとか、答弁で話されますが、あなたの思いを叶えるために、国会がある訳ではありません。国民が納得していないのは、あなたの説明のなさと、説明力の問題です」私たちに本気で伝える気はありますか」と訴え

る和花さんは、「集団的自衛

権の例えに、友達が悪に絡まれた時に支援するために、という例を用います。私は不良の定義は分かりませんが、戦争する国を不良に例えるとは、何なのでしょう。戦争をするには何かしらの理由があり、理由なしには絡んできません。」として私が今まで生き

《わだち目次》

敗戦70年 “を”として格差社会へ(4)	・・・1P
裁判員制度の検証と課題	・・・4P
海の日紀行	・・・8P
訪問系サービスに係る適切な支給決定に際しての、障害者総合支援法と介護保険法の適用に係る適切な運用について	・・・9P
障害福祉関係ニュースから	・・・11P
もしもの時は	・・・14P
福脊連活動資金確保「島原手延べそめん販売」ご協力の御礼	・・・16P
今月の時事	・・・18P

てきて、今に至るまでの私の友達の定義はこうです。友達だからって全てに頷くのは違うということですよ。もし理由があって揉めていたなら、間に入って話を聞いて、誤っている子に誤っている子、はつきり伝えるべきだと思います。」☆「米国が参加した戦争は全て正しかったでしょうか。米国を止める選択はないのでしょうか。戦争ありきではなく、会話で解決できる努力を惜しまない日本にはなれないのでしょうか。私はそれ、最善の努力を尽くすべきであることを求めます」☆「この法案には、どうやって、誰が、武力行使を判断するかという規定がない。『総合的に判断する』の答案だったの0点です。平時に国民の生活を守れない連中が、戦時に我々を守れるわけがないでしょう。☆「我々の非暴力・不服従の行動は続いていくんで

しょう。権力やお金を世襲している連中は、我々をあざ笑っているかもしれないが、負けるわけにはいかない。これから暑い夏だが頑張っていきたいと思います」☆スピーチの最後に和花さんは、「官邸・政府が「時間が経てば国民は忘れるだろう」という観測をたてていることに触れ、「私たち学生は今、学期末テスト最中です。みな試験を乗り越しながら、「ここに来ています。三連休が終わったら、忘れてしまつという舐められた予測を聞きましたが、とんでもないです。学生は夏休みになつたら、時間が沢山あるのです。政権与党のみなさん、これからです。私たちは諦めません。必ずひっくり返します」☆何を言われても、あのふんぞり返った政治家を政権の座から引き摺り下ろすまでは、この声を止めません」と。いやいや「闘う若者」に頭がながる。」☆「よく事態

を読み取り。きえ、未来志向で。自分の言葉で伝える。「地に足がついていてそこに、日本の行く先が見える。そのように実感した。安倍が言う『国民の理解が進んでいない』とは、持論の『軍事力を持って、同盟国(密接な関係にある他国)と共に「対処」するという軍事的対等な関係とする改憲である』ことに賛同しないから「理解が進んでいない」との見解だろう。しかし、『安倍の持論』に国民の多くが「立憲主義に反し、違憲である」と理解している。だから、連日、あらゆる立場の人々が、老若問わず国会前抗議行動を行っている。抗議行動は地方でも拡大していることでも明らかである。むしろ、米国議会での『同盟約束』にしても「国策」安保法制もTPP(環太平洋経済連携協定)を全面的に対米追随することをお伝えする。約束する」という私的領域

での物言い(政策)はいや、もはや、この国の『民主主義』は変容していること、多くの国民が理解している。政権の「解釈憲法改正」への暴走」「独裁政治」だとの、痛烈な批判していることも、独善的な姿勢への抗議であることを「理解された」『〜』についても届かないだろうが。まして、独善的に輪をかけた、先の磯崎補佐官の「法的安定性」の発言もしかり、他の与党議員の流され方、疑問が意見されないという実態、政治家としての「劣化」は、政権の先が透けて視えている証左かもしれない。むしろ、歴史的な認識についても、各界から提言がなされていることも馬の耳に念仏である。歴史は何を「学ぶのが」である。そこで、もう一度、読み取りたいと思う。その言葉のひとつ一つを。本年一月三十一日に亡くなった、ドイツの元大統領ヴァイツゼッカーの

演説は以下、『積極的にレジスタンスに加わることはなかったものの、良心をまげるよりはむしろ死を選んだ人びとを思い浮かべます。計り知れないほどの死者のかたわらに、人間の悲嘆、死者への悲嘆、傷つき、障害を負った悲嘆、非人間的な強制的不妊手術による悲嘆、空襲の夜の悲嘆。故郷を追われ、暴行・掠奪され、強制労働につかされ、不正と拷問、飢えと貧罪に悩まされた悲嘆、捕らわれ殺されはしないかという不安による悲嘆、迷いつつも信じ、働く目標であったものを全て失ったことの悲嘆—こうして悲嘆の山並みです。人びとが負わされた重荷のうち、最大の部分は多分、各民族の女性たちだったでしょう。彼女たちの苦難、忍従、そして人知れぬ力を世界史は、余りにもあっさり忘れてしまつたのです(拍手)。彼女たちは不安に警えな

から働き、人間の生命を支え護つてきました。戦場で斃れた父や息子、夫、兄弟、友人たちを悼んできました。罪の有無、老幼いずれを問わず、われわれ全員が過去を引き受けねばなりません。全員が過去からの帰結に関り合っており、過去に対する責任を負わされているのであります。心に刻みつけることがなぜかくも重要であるかを理解するため、問題は過去を克服することではありません。左様な事ができるわけはありません。後になって過去を愛えたり、起こらなかつたことにするわけにはまいりません。しかし、過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります。非人間的な行爲を心に刻もうとしない者は、またそうした危険に陥りやすいのです。われわれの義務は卒直なであります。心に刻みつけるといふことがきわめて重要

なのはなぜか、ユートピア的な救済論に逃避したり、道徳的に傲慢不遜になったりすることなく、歴史の眞実を冷静かつ公平に見つめることができるよう、若い人びとの助力をしたいと考えるのであります。人間は何かをしかならないか、これをわれわれは自らの歴史から学びます。われわれは今や別種の、よりよい人間になつたなどと思いがってはなりません。道徳に究極の完成はありません！いかなる人間にとつても、また、いかなる土地においてもそうであります。われわれは人間として学んでまいりました。これからも人間として危険に曝されつつけるであります。

しかし、われわれにはこうした危険を繰り返し乗り越えていくだけの力がそなわつております。『・・記憶に刻む夏。』忘れられた歴史は繰り返される「

とある。かみしめたい。あらためて「戦争と障害者」の関係についても追記する。

国連は『戦争は大量の障害者をつくりだす最大の悪である』として、一貫して、戦争や紛争と障害者の深い関係にあることを強調している。『それだけではない。戦時下の障害者は「くつろびし・非国民」と言われた時代(富国強兵)がある。さらには、ナチス時代(三国同盟時代)(富国強兵)で、「優性思想政策」に基づいて精神障害者や知的障害者、その他の先天性障害者の大量虐殺が行われたことか(ドイッチ4計画)と知られている。その歴史は、現在でもその「禍根」は残存することを読み取ろう。七〇年目の八月六日・九日を迎える。

敗戦、七〇年という歴史に生きた(終戦時三歳)一人として、その経緯を紐解くには時間を要するが。酷暑(しん)

海の日紀行。

海を見ようと計画してみた。行先は？

「はまゆづ」自生地のはまゆづ公園。そこから、遠賀川河口の、芦屋の街を目指して海岸遊歩道を散策予定。折尾駅からの、バス時刻を調べる。バスは1時間おきにあるが、スロープ付きは、2時間に1本である。折尾駅は、始発なので確実に乗ることができ、30分程揺られて行く。バスを降り、「とと市場」の海鮮丼で、腹ごしらえをする。それから、海岸に下りて、遊歩道をまっすぐ歩くのである。



はまゆづ公園のそばには、ロマンチックなのか、なんなのかわからない「夕日のみえるトイレ」がある。もちろん、身障者用トイレが設置されている。

また、公園内には「恋人の聖地」として認定されている鐘がある。確かに、この岬から眺める夕日は絶景であり、夕日を見た二人はロマンチックな気分になれるであろつ。

遊歩道の道のりは、3キロ程度で海岸波打ち際を行くので高低差はない。ゆっくと海岸



の景色を眺めながら楽しめるコースである。途中、海女さんが素潜り漁をしていた。岩場のサザエなどを取るようである。「あまちゃん」のように若い海女ではなかったのが残念であったが。

さうに行くこと、岬の先には千畳敷といわれる



岩場がある。波打った一枚岩は圧巻である。「この岬を過ぎると、洞穴の開いた小島(堂山)が見えてくる。」

「その昔、神功皇后が戦いに行く途中、芦屋に立ち寄り、必勝を誓って矢を射ると、矢は小島を貫通し、

その穴が大きくなって洞穴に

なった」という昔話があるらしい。矢で開いた穴が、波に浸食されて大きくなったのだろうか。さらに行く、厳島神社があった。鳥居には、文化14年とあるので2000年前に建った鳥居である。

神社そのものは、当然もっともっと前であるが。この厳島神社を過ぎると、遊歩道も終わりに近づく。

遊歩道の入り口と出口は傾斜路である。最後の力を振り絞る。ちなみに、障書用



トイレは、先に記述したように「夕日の見えるトイレ」や「とと市場」、「海の駅」などにもある。

(北九州支部 白川 長廣)

福脊連活動資金確保「島原手延べそうめん

販売」

ご協力の御礼

平成十六年五月から始まり、本年二七年で十二年となりましたが、福脊連活動資金確保の事業(島原手延べそうめん)の販売を続けさせて頂き、大変助かっています。

本年も、福脊連会員の皆様や賛助会員の方々を始め、その他関係者の皆様の多大なるご協力によって、各支部共に多くの、「そうめん」を売り上げる事が出来ました。毎年、買って頂いている方は勿論、本年も買って頂き、また、新たな方も買って下さいました。

福脊連に対して、ご支援下さる温かいお心遣いに触れさせて頂き、私達役員一同、心から感謝いたしております。

販売も七月末にて終わりました。各支部の集計が、今号に間に合わず、掲載できませんでした。お礼が遅くなり、申し訳ありません。誠に有難うございました。

尚、本来ならば、買って頂いた方、全員のご氏名を掲載すべき所ですが、紙面の都合上省略させて頂きましたので、ご容赦下さい。

ご協力頂きました皆様が、

県役員一同
支部役員一同

☆ お知らせ ☆

**わたちでは皆様から、俳句・短歌
・川柳・写真等を、募集します。**

**事務所にFAX・メール・郵送等で、
お送りください。**

お待ちしております。

どうぞよろしくお願ひします。

《 今月の時事 》

猛暑が続く夏・・・怒り心頭、心が熱くざわめく夏・・・安倍政権の「暴走」・・・敗戦70年への問い。確かに「日本国憲法の草案を作ったのは米国」だが、しかし、これまで「憲法」を変えず、「反軍事」の姿勢(第九条)を堅持してきたのは「国民の総意」であったと、誰もが「異を唱えないだろう」と思う。米国の歴史家ジョン・ダワーさんは、「日本のソフトパワー、反軍事の精神は、政府の主導ではなく、国民の側から生まれ育ったものです。敗戦直後は極め苦しい時代でしたが、多くの理想主義と根源的な問いがありました。平和と民主主義という言葉は、疲れ果て、困窮した日本人にとって、とても大きな意味を持った。これは、戦争に勝った米国が持ち得なかった経験です。～核戦略含め、米国の政策を何でも支持するのが日本政府です。その意味では、戦後日本の姿勢は、いわば『従属的独立』だと考えます。独立はしているものの決して対等ではないのです。」～岸信介首相は確かに有能な政治家でありましたが、従属的な日米関係を固定化する土台を作った人だと私は考えています。」「同様に、孫の安倍首相が進める安全保障政策や憲法改正によって、日本が対米自立を高めることはないと思います。逆に、ますます日本は米国に従属するようになる。」～「中国近海を含んだすべての沿岸海域を米国が管理するという考えです。これを米国は防衛と呼び、中国は挑発とみなす。米中のパワーゲームに日本が取り込まれています。ここから抜け出すのは難しいですが、日本のソフトパワーによって解決策を見いだすべきです。～本当に偉大な国は、自分たちの過去を批判しなければなりません。日本も米国も、戦争中に多くの恥ずべき行為をしており、それは自ら批判しなければなりません。・・・～すべての国は称賛され、尊敬されるべきものを持っている。そして自国を愛するからこそ、人々は過去を反省し、変革を起こそうとするものです」との提言。(オピニオン―戦後70年、日本の誇るべき力・朝日新聞 8月4日朝刊から抜粋) ジョン・ダワー著「敗北を抱きしめて」を再読しつつ、6日・9日の広島・長崎の原爆の日を刻み込んで、流れに抗し続けることを・・・猛暑の夏に叫び!! (しん)

- 編集 福岡県脊髄損傷者連合会 会長 藤田 幸廣
〒816-0804 福岡県春日市原町3丁目1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内6階
TEL&FAX: 092-592-4528
E-Mail: fukusekiren-kasuga@cello.ocn.ne.jp
- 発行 九州障害者定期刊行物協会 頒価100円(会費に含まれる) 〒812-0054 福岡市東区馬出2-2-18

編集後記

冷房を我慢して、熱中症になられる方が、多いと聞きま
す。体に合わせた、冷房を利
用しましょう。(坂本)



この広報誌は、共同募金の配分金を受けて発行しています。